

幼児教育コース卒業生アンケートの公表について（一部抜粋）

【実施期間】

2025年8月7日～8月31日

【対象】

教育学部教育学科幼児教育コース
 2021年度～2023年度卒業生 計231名

【回答者数】

32名（回答率13.9%）

【設問】

1. 卒業年度を教えてください。

- | | |
|-------------------------------|----|
| ●2021年度（2022年度3月卒業） | 13 |
| ●2022年度（2022年9月あるいは2023年3月卒業） | 9 |
| ●2023年度（2023年9月あるいは2024年3月卒業） | 10 |

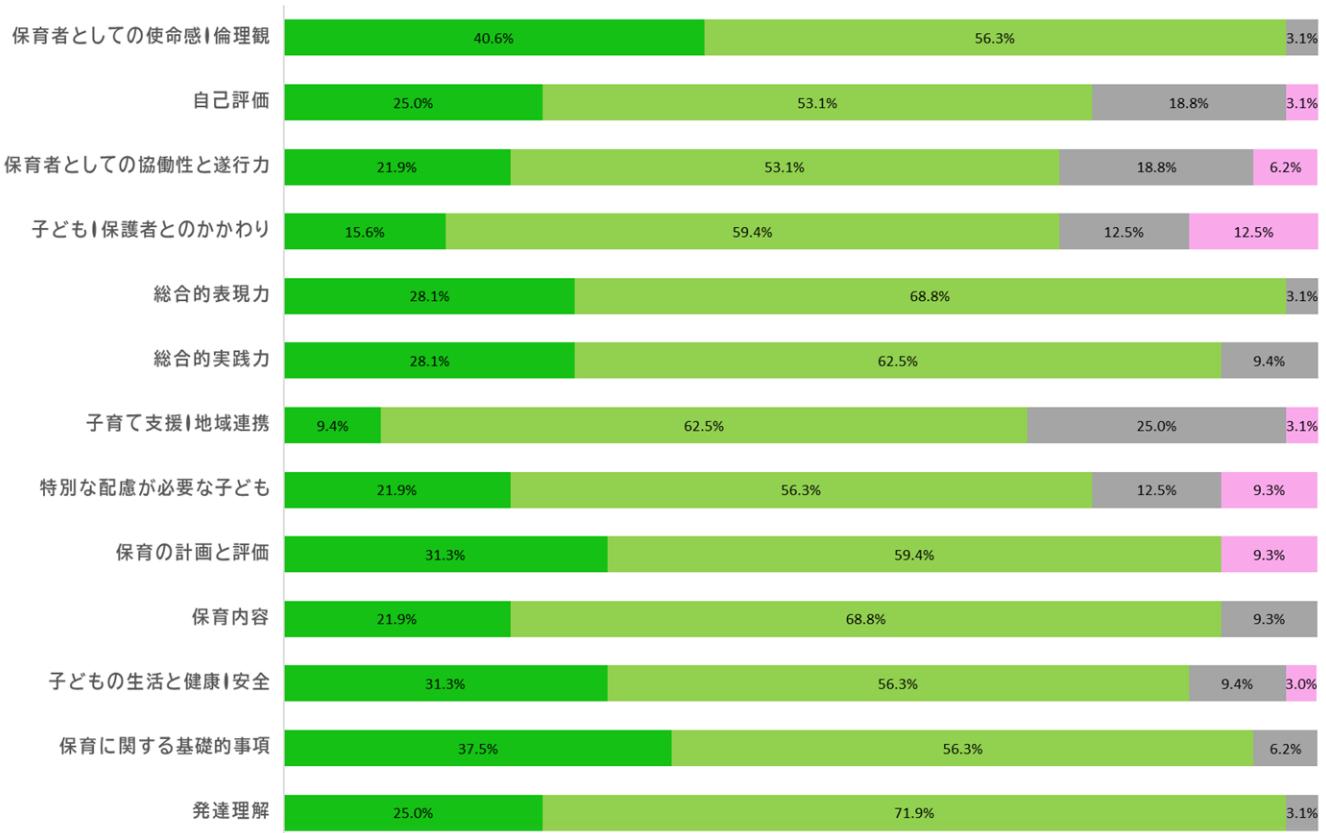
2. 以下の能力（知識・技能等）について、大学での学びにおいて身についたと感じるものについて

回答してください。回答にあたってはよろしければ以下の資料も参考にしてください。

DP分類	DP		コンピテンス（DPを構成する要素）
専門分野別DP	DP4	専門的な知識 教育学科 幼児教育 コース	保育・幼児教育に関する専門的知識を身につけている。
			01 発達理解 乳児期、幼児期、学童期以降の発達過程についての知識を有するとともに発達の個別性について理解している。
			02 保育に関する基礎的事項 保育・幼児教育の意義、理念、歴史、制度についての知識を有するとともに、子どもを取り巻く社会状況と取り組みについて理解している。
			03 子どもの生活と健康・安全 子どもの生活や健康・安全に関する基本的な知識を有するとともに今日の課題について理解している。
			04 保育内容 保育・幼児教育における保育内容を理解し、子どもの発達過程に合わせて展開するための知識・方法を身につけている。
			05 保育の計画と評価 保育・幼児教育における計画と評価の意義を理解し、指導計画・支援計画及び記録について知識・方法を身につけている。
			06 特別な配慮が必要な子ども 障害や異文化等多様なニーズについての知識を有し、保育を構想するための方法について理解している。
	DP5	専門的な技能 教育学科 幼児教育 コース	07 子育て支援・地域連携 家庭における子育ての意義と今日の課題について理解し、その支援のための方法や連携についての知識を身につけている。
			保育・幼児教育に関する専門的技能を身につけている。
			01 総合的実践力 保育・幼児教育に関する専門的知識を総合的に活用しながら、子どもの生活と成長を支える保育を組み立て、実践することができる。
			02 総合的表現力 保育・幼児教育の場において、適切な表現方法を選んで組み立て、効果的に表現することができる。
			03 子ども・保護者とのかかわり 保育・幼児教育に関する専門的知識を生かし、子どもと適切にかかわり、保護者を支援することができる。
			04 保育者としての協働性と遂行力 多様な考えを持つ同僚や仲間との協働、外部機関との連携を通して他者と対話し、共に保育に取り組むことができる。
			05 自己評価 経験をふりかえることで学びのプロセスを自覚し、向上心をもって、自らの課題に取り組むことができる。
			06 保育者としての使命感・倫理観 保育者としての倫理観に基づき、子どもの最善の利益の追求へむけて使命感をもって保育に取り組む姿勢・態度を示すことができる。

大学での学びにおいて身についたと感じる知識・技能

■とてもよく身についたと思う ■まあ身についたと思う ■どちらでもない ■身についていないと思う ■全く身についていないと思う



3. 在学中の、幼児教育コースでの学びや活動を通して、特に身についたと思う能力（知識・技能等）について記入してください。（回答一部抜粋）

・保育観

・座学の知識だけでなく、保育実習や施設実習、大学に親子の方々を呼んで行った実習などから、こどもたちや保護者の方との実際のかかわりを学びました。

・発達、子どもの心理についてや保護者への対応などは就職後に役立ちました。

・実践の学びが多かったです。一年の時から現場へ行ってボランティア等の機会が合ったのはありがたかったと思う。座学より実践があったのもよかったです。

・遊びや制作をたくさんしたことで、取り組みの引き出しが多く身についた！

・子どもの気持ちを汲み取る能力、子どもの姿、行動をみて、その子どもの課題を見つける能力などを実習や授業の中での実践的な体験で身につけることが出来た

・私はピアノを大学から学び始めました。卒業するまで苦手なままではありました。読みななかった楽譜も読めるようになり、就職してから子どもに弾いて欲しいと言われた時にコードを覚えていて左手も使って弾けたりするのが分かり、身についた技術だと感じています。

・保育者としての使命感・倫理観

・コロナ禍で現在、大谷大学に通っている生徒よりかは実践的な学びは少なかったかもしれないが、その中でもボランティアに行かせて頂いたり、他の園を知る機会があり、より実践的な立場で現場を見る機会があったことがよかったです。また、実習簿の書き方等も丁寧に教わったことで、週案や月案、期案、要録等も就職当初から最低限はできていたと思う。

- ・ピアノの技術
- ・各年齢の発達段階を勉強することによって、子どもとの関わりに活かせることができた。
また、複数回の保育、教育実習、ボランティア活動で実践的な学びも沢山だったので、今の保育に活かせている。
しかし、製作活動の技法や楽器演奏指導など、もっと細かい部分の学習もしたかったと思う部分もある。
- ・保育士としての基礎的な知識、子どもたちとの実践を通した関わり方
- ・環境構成が特に身に着いたと感じる
- ・心理士の実習で困り感のある子どもについての経験が、今の保育の困り感のある子どもの対応に活かされている
- ・子どもがうまく言葉にして表現できない気持ちを、まず聞き出したり、背景なども含めて考えて、子どもへの理解を深めること。
- ・礼儀、挨拶など基本的なことかと思います。
- ・実習簿のエピソード記録を通して、子どもの言動や行動を観察・考察し、その背景や心理を踏まえて保護者に伝える習慣が身につきました。その際、これからどのような言葉かけや保育を行うかを保護者の意見を聞きながら相談、共有し、保護者に安心して預けていただけるよう、信頼関係を積み重ねていく力が培われてきたように思います。

【回答結果を受けて】

幼児教育コースでは、保育現場での体験的学びと大学での理論的学びの往還を理念に掲げ、人としても保育者としても成長し続けられる人物の養成に取り組んでいます。

今回いただいた卒業生のみなさんの言葉は、まさに本コースの理念を体現したものであり、大変嬉しく思いました。
いただいた貴重なご意見をもとに、社会で活躍できる人物の育成に向け、今後も教育の充実に努めてまいります。